

クラス単位のタブレット端末を導入し、ペーパーレス化を推進したことで、業務の効率化を図ることができた

社会福祉法人 白川園
児童発達支援センターおひさま（福祉型児童発達支援センター）

課題

- 登録児童約100名に対し、紙媒体でお便りやお知らせ等を配布していたが、プリントアウトや折り込み作業に時間を要していた。また、入れ忘れや配布時期による情報の入り方に差が生じていた。
- 欠席連絡や簡易な連絡等を電話でやり取りしていたが、1件につき終結まで10分程度の時間を要していた。
- 放課後等デイサービスにおいて、連絡帳記入（保護者への活動報告書）に時間を要していた。



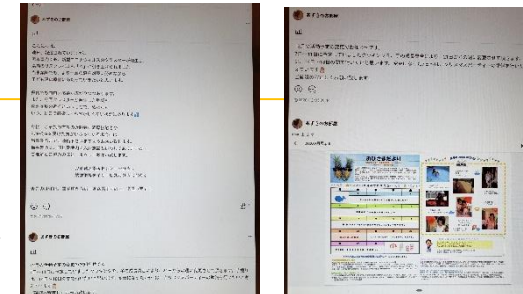
保護者への配布物は全て紙媒体で行っていた

ICT機器導入

タブレット端末の導入

成果

- ①業務の質の向上
 - 保護者へお便りを一斉送信することで、情報発信が同時にできるようになった。
 - 職員は、プリントの折り込み作業が減り、配布忘れもなくなった。
 - アプリでのメッセージのやり取りが可能となったため、取り次ぎや報告等の時間が削減できた。
- ②量的な効率化
 - 約35%のペーパーレス化を図ることができた。
 - 職員の事務時間を平均30分短縮することができた。
 - 約100名の登録者に対して、同時に情報発信することが可能となった。



保護者への配布物、職員情報共有をタブレット端末で行った

業務効率化のステップ

- ①導入前の検討状況：約100名の保護者に対してアプリの使用方法や利用方法等について検討をおこなった。紙媒体で作成したお便りを電子媒体用に内容やレイアウトを変更した。画像データ処理の仕方が分からない職員が多かったため、PDF変換機能やスクリーンショット添付機能等、タブレット端末の使い方の説明会を行った。配信日と時間の設定を全クラス統一した。配信方法についても予約管理の仕方について説明会を行った。
- ②導入内容（詳細）：タブレット端末に保護者との連絡アプリをインストールし、保護者はQRコードを読み込むことで簡単にインストールができ、登録までの流れはチャットボット機能を活用して、職員が返信・登録する作業の手間を省いた。保護者への情報配信は予約制とし、全ての保護者に同時刻に情報が行くようにした。保護者への日々の療育報告書は当日中に書くことを廃止し、翌日の午前中に記入を行い、データを送信することで報告書の内容の充実化を図った。
- ③導入における問題点の洗い出し・それに伴う改善など：全職員の作業工程が定着するまでに数件の誤送信が発生した。PC入力に慣れている職員はフリック入力を覚えるのが大変という声が聞かれた。誤送信防止のため、送信前に事業所のメールにテスト配信し、内容の再確認を行う。又、個々の保護者に配信する画像等のデータについては、配信前に2人で再確認を行うこととした。

職員の声など

【良かった点】

- 紙媒体によるお便り配信がなくなったため、折り込み作業や渡し忘れがなくなって良かった。
- 折り込み作業にかかっていた時間を事務時間にまわすことが出来たため、以前より定時で帰ることができるようになってきた。
- 週1回の利用の保護者への情報伝達が、月曜日と金曜日の人では郵便物が届くのに時差が生じてしまい、情報伝達に不公平感があったが、タブレット端末を導入し、一斉配信することになったため、全ての登録児童のご家庭へ同時に情報発信できるようになって良かった。
- 職員もアプリをインストールしているため、全職員（正規・非正規）での情報共有が簡単になった。

【悪かった点】

- 操作に慣れていなかったり、急いでしまうと誤送信に繋がってしまうため、配信ボタンを押すのがストレスに感じるがあった。
- キーボード入力に慣れているため、タブレット端末用のキーボードも購入すればよかった。

【今後の方向性・その他】

- クラウドサービスの導入をさらに推進し、通所支援事業所にマッチしたアプリを開発し、情報の一元化を行うことで、更なる業務省力化（事務負担の軽減）を図ることが可能となる。又、自社で開発したアプリを地域の事業所でも活用していただくことで、他所の業務効率化・質の向上にも貢献できる可能性がある。また、事業所の事務負担が軽減することで研修時間を確保できる可能性も広がり、療育の質の向上にも繋がるのではないかと考える。